

第一辑

日语偏误与日语教学研究

Journal of Errors in Use of Japanese and Japanese Language Teaching

日语偏误与日语教学研究会 编



浙江工商大学出版社





上架建议 日语・教学研究

ISBN 978-7-5178-1781-9



9 787517 817819 >

定价：32.00元

Journal of Errors in Use of Japanese and Japanese Language Teaching

日语偏误与日语教学研究

第一辑

日语偏误与日语教学研究会 编



浙江工商大学出版社
ZHEJIANG GONGSHANG UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

日语偏误与日语教学研究. 第一辑/ 日语偏误与日语
教学研究会编. —杭州: 浙江工商大学出版社, 2016. 7
(2016. 9 重印)

ISBN 978-7-5178-1781-9

I. ①日… II. ①日… III. ①日语—教学研
究—文集 IV. ①H369—53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2016)第 174259 号

日语偏误与日语教学研究 第一辑

日语偏误与日语教学研究会 编

责任编辑 罗丁瑞 姚 媛

封面设计 林朦朦

责任印制 包建辉

出版发行 浙江工商大学出版社

(杭州市教工路 198 号 邮政编码 310012)

(E-mail: zjgsupress@163.com)

(网址: <http://www.zjgsupress.com>)

电话: 0571-88904980, 88831806(传真)

排 版 杭州朝曦图文设计有限公司

印 刷 虎彩印艺股份有限公司

开 本 710mm×1000mm 1/16

印 张 11.25

字 数 162 千

版 印 次 2016 年 7 月第 1 版 2016 年 9 月第 2 次印刷

书 号 ISBN 978-7-5178-1781-9

定 价 32.00 元

版权所有 翻印必究 印装差错 负责调换

浙江工商大学出版社营销部邮购电话 0571-88904970

主 编 于 康(关西学院大学)
副 主 编 林 璋(福建师范大学)
王 忻(杭州师范大学)
本期责任主编 于 康(关西学院大学)
本期执行编委 (以汉语拼音为序)
林 璋(福建师范大学)
毛文伟(上海外国语大学)
朴秀娟(神户大学)
杉村泰(名古屋大学)
王 忻(杭州师范大学)
于 康(关西学院大学)
于一乐(滋贺大学)
张佩霞(湖南大学)

秘 书 处 662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155
関西学院大学国際学部 于康研究室内
秘 书 长:朴丽华
副秘书长:朴秀娟
投稿用メールアドレス:goyouken@163.com

目 录

【研究论文】

- 日・中語話者における起点を表す格助詞「を」と「から」の選択傾向の違いについて
 —二者択一テストと○×テストの比較— …… 杉村泰 / 003
- 格助詞の交替から見た中国語を母語とする日本語学習者の「に」
 「を」間の誤用 …… 高山弘子 / 021
- 中国語母語話者の日本語学習者における格助詞「に」の誤用状況について
 —格助詞「に」の不使用を中心に— …… 呂 芳 / 038
- 于格助 ▪ 「* を→と」与「* と→を」的 ▪ 用 …… 朴 ▪ ▪ / 054
- 中国語を母語とする日本語学習者の格助詞「ヲ」「ニ」の誤用について
 —受身文と使役文における誤用の分析— …… 王辰寧 / 067

【论 坛】

- 「昔の人々が旅行したとき、わらじが破ればまた新しいわらじに交換した。」错在哪里? …… 林 璋 / 083
- 「私は興味のある仕事が司会者です。」错在哪里?
 …… 苞山武 ▪ / 088
- 「いったいどういうことは公害問題だろう。たぶん人間の身から出た錆と言えるかもしれない。」错在哪里? …… ▪ 雷宁 / 092
- 「私は彼の状況を心配です。」错在哪里? …… 熊仁芳 / 097
- 「いま私はある日系企業に働いていて、毎日忙しいけれども、充実感を持っている。」错在哪里? …… 野村登美子 / 101

- 「都市に育てられた私は、視野が狭いから、この時に、何とか様々な生活を体験したいです。」错在哪里? ■ ■ / 105
- 「現代的な二枚目の姿をとって観客の前で現れた。」错在哪里? 徐 ■ / 108
- 「多くの妻は夫が何もせず、ただ外で遊ぶ行為をもう我慢できない。」错在哪里? 金稀玉 / 111
- 「これは日本人の完璧主義の精神に密接な関係がある。」错在哪里? ■ 佩霞 / 115
- 「日本政府は承知していたはずだが、世論の紛糾から避けるために事実関係を曖昧にしていたのだ。」错在哪里? 王 怡 / 119
- 「結局、家を離れて、家に遠い学校へ行って、静かなひとり暮らしを始めました。」错在哪里? 刘 ■ ■ / 123
- 「最後に、先生から一年間教えていただいて、ありがとうございました。」错在哪里? 于 康 / 128
- 「最初に理解できませんでした、だんだん好きになって、心から深く、感動させられています。」错在哪里? ■ 威 / 133
- 「驚いたことは、先生はもう約束の場所で待っていました。」错在哪里? 彭玉全 / 137
- 「人によって幸福の瞬間は違います。たとえば、子供は母の笑顔を見た瞬間は幸福と思います。」错在哪里? ■ ■ 敏 / 141
- 「他人と交流する時に敬語を使うと、自分が話し相手に対する感情や態度をちゃんと表すことができる。」错在哪里? 王 忻 / 145
- 「自習の時、静かな環境が必要です。大きい声を話してはいけません。」错在哪里? 林 春 / 148
- 「中国は2008年四川省大震災が起きました。」错在哪里? 高永茂 / 151
- 「彼の封建的な論理思想こそ一人の命を絶ってしまったのである。」错在哪里? 向坂卓也 / 155

日语偏误与日语教学研究会会则/日本語誤用と日本語教育研究 会会則	159
日语偏误与日语教学研究会组织结构/日本語誤用と日本語教育 研究会組織構成	161
入会案内	162
投稿規定	164
査読規定	167
▪ 后 ▪	168

| 研究论文 |

日・中語話者における起点を表す格助詞 「を」と「から」の選択傾向の違いについて —二者択一テストと〇×テストの比較—

杉村泰(名古屋大学)

要 旨 本稿は日本語のいわゆる起点を表す格助詞「を」と「から」の選択について、日本語母語話者と中国人日本語学習者の選択傾向の違いを分析したものである。分析に当たっては、「を」と「から」のうちどちらか一つを選ばせる「二者択一テスト」と、「を」または「から」を使った文について、正しいと思えば〇、間違っていると思えば×のどちらか一つを選ばせる「〇×テスト」の二つのアンケートを併用した。その結果、母語話者は「次のステージへの移動」を表す場合には「を」を選択し、「その場からの脱出」を表す場合には「から」を選択するのに対し、学習者は「その場からの脱出」を表す場合には「から」を選択しやすいものの、「次のステージへの移動」を表す場合には「を」を選択するのが難しいことを明らかにした。

キーワード 格助詞, 起点, 「を」, 「から」, 中国人日本語学習者

1. はじめに

日本語の格助詞「を」と「から」はどちらもいわゆる起点を標示する機能を持っている。^① しかし、両者は例(1)のように置き換えができ

①本稿では「を」は第一義的には(働きかけの対象)を標示すると考えるため、「いわゆる」という表現を用いている。

る場合もあれば,例(2)のように置き換えができない場合もあり,日本語学習者には必ずしも使い分けが容易ではない。

(1)彼はさっき家{を/から}出た。

(2)彼はアメリカの有名大学{を/*から}出た。

実際,中国語を母語とする日本語学習者は,上級になっても例(3)のような表現を使う誤用がよく見られる。

(3)私は中国の〇〇大学から(→を)卒業した〇〇と申します。

そこで本稿では,日本語母語話者(以下,「日本人」と呼ぶ)と中国語を母語とする上級日本語学習者(以下,「中国人」と呼ぶ)を対象に,「二者択一テスト」と「〇×テスト」の2種類のアンケートを用いて「を」と「から」の選択について調査し,両者の選択傾向の違いについて分析する。その結果,日本人は「次のステージへの移動」を表す場合には「を」を選択し,「その場からの脱出」を表す場合には「から」を選択するのに対し,中国人は「その場からの脱出」を表す場合には「から」を選択しやすいものの,「次のステージへの移動」を表す場合には「を」を選択するのが難しいことを明らかにする。

2. 先行研究

いわゆる起点を表す格助詞「を」と「から」については,三宅(1995),楠本(2002),森山(2008),日本語記述文法研究会(2009),杉村(2005)などで議論されている。このうち三宅(1995)は,例(4)のように物理的な移動を表す場合は「を」も「から」も使えるが,例(5)のように抽象的な移動を表す場合は「を」しか使えないとして,「『出る』が『卒業する』のような抽象的な移動の意味を表すような場合は,もはや移動動詞ではないとすることもあり得る(その場合は変化動詞ということになる)(p. 68)」と論じている。

(4)車で,太郎は大学{を/から}出た。〔三宅 1995の例(4)〕

(5)去年,太郎は大学{を/*から}出た。(卒業した)〔三宅 1995の例(3)〕

また,三宅(1995)は,例(6)のように意志的にコントロールされる移動の場合は「を」も「から」も使えるが,例(7)のように意志的にコントロールされない移動の場合は「から」しか使えないと指摘している。

(6) 太郎が部屋{を/から}出た。〔三宅 1995の例(6)〕

(7) 煙が煙突{*を/から}出た。〔三宅 1995の例(5)〕

しかし、意志的にコントロールされる場合の「を」と「から」の違いについては、「カラ格を用いた方がより起点を強調した表現となる(p. 71)」という説明にとどまっている。また、次の例(8)は意志的にコントロール可能で、物理的な移動を表すにも関わらず「を」しか使えない。このような場合について、三宅(1995)の議論では説明がつかない。

(8) 私は毎日 7 時に家{を/*から}出て学校に行く。

これに対し、楠本(2002)では、「太郎を殴った」、「良き友を持つ」、「山を登る」の「を」はすべて「支配性」という概念で統一的に説明できるとして、「家を出る」、「大学を卒業する」、「席を立つ」などいわゆる動作の起点を表す「を」についても、「これらの『を』格文は主体が属していたものからの離脱を表し、さらに『私ごと』の延長として離脱する目的が暗示される(例えば、『家を出て会社へ行く』等)というように学習者に教えるならば、『を』格の存在が理解出来、正しい使い方が出来るようになるであろう(p. 10)」と主張している。

同様に、森山(2008)も、「ヲの『起点』用法では、『動力連鎖のプロセス』をベースとし、その動力連鎖の行きつく場所(動力連鎖の終点)が結果的に『起点』としてプロファイルされている。この点が『移動などのプロセス』をベースとし、その『起点』をプロファイルするカラと異なっている(pp. 242—243)」として、「を」格のプロトタイプからの拡張として捉えている。

また、日本語記述文法研究会(2009)では、「『を』が表す起点は離脱点としての起点であり、通常、その後に意志的な移動が表される。一方、『から』は境界線によって分けられた一方から他方への移動における、広い意味での起点を表す(p. 68)」と説明されている。

一方、杉村(2005)では日本人と中国人にアンケートによる「を」と「から」の二者択一テストを実施して、日・中語話者の「を」と「から」の選択傾向について調査している。その結果、「『から』が第一義的に〈起点〉を標示するのに対し、『を』は広い意味で〈働きかけの対象〉を標示するものである(p. 118)」、「すなわち、A 地点から B 地点への移

動に重点がある場合は『から』が選択され,そこでの活動に終止符を打つことに重点がある場合は『を』が選択される傾向のあることを主張した(p. 118)」としている。しかし,学習者のことについては,「毎日7時に家を出る」,「有名大学を出る」などの表現において「学習者は母語話者に比べ,『を』を選んだ人の割合が低い(pp. 116—117)」ということを指摘しているぐらいで,あまり詳しい議論はされていない。

これに対し,本稿では「言える(正しい)一言えない(誤り)」という指標と「言う(選択する)一言わない(選択しない)」という指標を合わせて見ることにより,日・中語話者の起点を表す「を」と「から」の選択傾向の違いを分析する。

3. 調査の概要

一般にある表現が文法的に正しければ選択され,正しくなければ選択されないのが普通である。しかし,類義表現でどちらも言おうと思えば言える場合,許容度は高くても選択率は低くなることがある。そこで本稿では「言える一言えない」という許容度を見る「○×テスト」と「言う一言わない」という選択率を見る「二者択一テスト」を併用して分析する。調査項目は杉村(2005)と同じ14の「～出る」文を利用した。これらは「毎日7時に家()出る」のように「家庭生活→会社・学校生活」といった「次のステージへの移動」を表しやすいもの(項目1,2,4,7,6)と,「夫が知らない女の家()出てきた」のように単にその場から離れることを表す「その場からの脱出」を表しやすいもの(項目3,8,9,12,14)と,どちらも取れるもの(項目5,10,11,13)とが含まれている。

これをもとに表1～表8のような「二者択一テスト」と「○×テスト」を作り,日本人と中国人に回答してもらった。「二者択一テスト」とは例(9)のような文の括弧の中に「を」と「から」のうちより適当だと思う方を一つ記入するテストで,「○×テスト」とは例(10)や例(11)のような文について,正しいと思えば○,間違っていると思えば×のどちらかを括弧の中に記入するテストである。このうち「○×テスト」は14文全部「を」のアンケートと,14文全部「から」のアンケートを用意し,お互いのテストの影響を受けないようにするために

日中ともそれぞれ異なる被験者に実施した。

「二者択一テスト」の例

(9)私は毎日7時に家()出る。

「〇×テスト」の例

(10)私は毎日7時に家を出る。 ()

(11)私は毎日7時に家から出る。 ()

今回の調査の被験者の所属,人数,調査時期は以下のとおりである。

A. 日本語母語話者(日本人)

- ・二者択一テスト:名古屋大学の学生 118 名(2015 年 11—12 月)
- ・「を」の〇×テスト:同上 58 名(2015 年 10 月)
- ・「から」の〇×テスト:同上 60 名(2015 年 10 月)

B. 中国語を母語とする上級日本語学習者(中国人:N1 合格レベル,学年は学部1年生から大学院生まで様々)

- ・二者択一テスト:上海師範大学・華東政法大学・北京科技大学・北京理工大学・上海財経大学・西安外国語大学の日本語専門の学生合計 66 名(2015 年 3—11 月)
- ・「を」の〇×テスト:同上の大学の学生合計 70 名(2015 年 9—11 月)
- ・「から」の〇×テスト:同上の大学の学生合計 67 名(2015 年 9—11 月)

これを集計して,二者択一テストの場合は「を」と「から」の選択率(%)を算出し,〇×テストの場合は「を」と「から」それぞれの許容度(%)を算出した。本稿でいう許容度とは全回答者数のうち〇を付けた回答者の割合のことを指す。